

異なりつつも二つ

わたしは京都の花園大学に進学し、そこで偉大なお二人の恩師に出会いました。お一人は山田無文老師やまだむぶんであり、もうお一人が河野太通老師こうのたいつうです。お二人とも花園大学の学長、そして、臨済宗大本山妙心寺派の管長猥下に就任されるなど、いわば禅宗の名僧と呼べる方々であり、このお二人がわたしを禅の世界に導いてくださいました。その教えを4年間受けた後、私は家業である葬儀社を継ぐべく、岡山に戻って参りました。やがて、株式会社いのうえの社長になり、いのうえグループの代表となりましたが、お二人の禅の教えは、私の生き方や経営を導いてくださったと感じています。偉大な恩師お二人からご教授いただいた禅の思想は、今でもわたしの経営マネジメントの根幹を支えるものです。禅は、実践哲学であり、心のありようを指し示す道。この世を生きるために必要な教えが禅にはたくさんあります。

私は四年前に得度をいたしました。通常であれば、得度とは出家をして僧侶になることをいうのですが、わたしは現世を離れてしまったわけではありません。日常生活や会社経営をしながら、禅の思想が、わたしをさらなる世界へ導いてくれることを体感しております。

それでは、禅の教えとはどういうものでしょうか。もちろん、それは言葉では到底表すことのできないものですが、その教えの根本にあるひとつが「不二一如」ふにいちによの価値観です。「不二一如」とは、「全て真実の姿はひとつ」であるという意味です。あなたはあなたであり、わたしはわたしであり、わたしはあなたではなく、あなたはわたしではないが、けれども異なりつつ、一つであるという考えです。

インタビュー 共に生きる 幸せ



大衆禅道場

恩師、河野太通老師は、二〇〇四年から龍門寺りゅうもんじの住職を務めておられます。広く一般の人々にも禅の思想にふれていただく機会を得てもらおうと、この寺を「大衆禅道場」といたしました。本来、禅道場というのは「僧堂」です。つまり、完璧に社会から隔離して僧侶として非常に厳しい修行を重ねる場所です。しかし、「大衆禅道場」はそれほど厳しいものではなく、禅の心というものをいわばシニア世代の知恵者たちに知っていただくという道場です。

禅宗というのは、唯一教義を持たない宗派です。各人が実践し、感じて発見することが大切だというわけです。そのため、教義にとらわれず、それぞれの生き方に応じて自分自身を高めることもできるわけです。例えば、何かの問いに対し、答えがAでなければならぬのではなく、Aもあり、BもCもあります。その上にDもありますよ。といった考え方ができるというわけです。型や枠に入る必要がないので、多くの人が学ぶことができるというわけです。

太通老師が感じておられるように、現在は僧侶以外の人々にも禅の考え方が必要とされている時代ではないでしょうか。なぜなら多くの人が心が病んでいるからです。偏差

※1 臨済宗妙心寺派 龍門寺 所在地・兵庫県姫路市網干区浜田812
臨済宗妙心寺派の禅刹で、盤珪国師の根本道場として、寛文元(1661年)に創建される。姫路市指定重要文化財。

年末年始特集



「不二一如」の価値観 ふにいちによ 人の時代

値教育で心がむしばまれる子どもたち。社会の常識まじりてや厳しさに適応できない若者。シニア世代においても、老人性鬱といわれるように、引きこもりや精神の偏りが見られます。智育、体育には力を入れても徳育といった心の教育をないがしろにしてきたばかりに、心が育たない社会になってしまいました。

禅宗では「心体一如」といって、心と体は本来ひとつという考え方があります。体の健康を求めるのなら、心の健康が大切です。また、心の健康のためにも体の健康を守ることも必要です。心の教育を忘れて、健全な成長があるとは思えません。

自他一如の境地

心を育てることが大切であれば、もちろん健康な体を育てることも重要です。最近では「食育」という言葉もよく聞かれますが、バランスのよい食事と体を育てようということですが、ところが、最近の子どもたちは、ちょっとしたことでも骨が折れてしまう。身体の弱さも問題になってきました。

我々が子どもの頃は、骨も丈夫で、骨折しにくいのはもちろん、少々ケガは平気でした。薬もつけずにいつのまにか治っていました。なぜならば、自然の中でのびのびと育てられていたからです。自然を相手に、おもちゃなどは持たず、自分の知恵で遊びを見つけ、走り回っていました。こうした自然との一体感を禅宗では「人境一如」と言います。

日本は偏差値教育ですが、偏差値教育は、世界で見ると、韓国と日本しか採用していません。偏差値教育とはどういうものか。例えばここに真っ赤なニンジンと土色のご

「新たな年は、幸福な一年にしたい」と誰もがそう願っています。けれども、心がつまづくことが多い世の中。

そこで今回は、「禅」の教えに注目をして、生きるためのよりどころとなる言葉を探ります。お話は、「玄皓」という法名をお持ちの井上峰二氏。

ぼうがある。どうみてもゴボウは汚れているように見える。そこで、「ゴボウよ、おまえは汚いので、明日からは真っ赤なニンジンになれ」と言っているようなものです。ゴボウにはゴボウの栄養があり、ニンジンにはニンジンならではの栄養価があります。それぞれの良さを殺してしまう偏差値教育では、過程よりも結果ばかりを追い求める、打たれ弱い人間しか生み出せません。幾つになっても人に必要なのは徳育教育です。「親を大切にしよう」「先祖を敬おう」「人々に感謝しよう」「生かされていることに感謝しよう」という当たり前のことに気づくことです。

我々は「自他一如」の存在です。今ここにいるのは、両親やご先祖のおかげです。そのご縁は永遠につながります。まさに、良きご縁に恵まれて、今ここに私たちは生きているのです。その当たり前のことに気づけば、生きていることに感謝し、他人の痛みを自分の痛みとして感じる事ができるはずです。これは、自分と社会との関係でもあります。私と社会は切り離せるものではなく、一つにつながっている存在です。そう分かれば、全てに感謝の気持ちが湧いてきます。さまざまな事象を受け止めて、自然体で生きていくことができます。最後の最後まで命の幸せをかみしめて生きることが出来ます。

Okayama Human Talk

株式会社いのうえ
代表取締役社長 井上峰一(いのうえみねひと)氏

倉敷市出身。1949年2月生まれ。
花園大学文学部卒業後、1971年井上葬儀社入社、1985年
年から現職。2007年仏壇仏具販売の鵬林会長。2009年姫
路・龍門寺において、妙心寺派管長河野太通老大師により
得度を行う。法名「玄皓」。現在、倉敷商工会議所会頭、学校
法人関西学園理事長、国家公務員共済組合連合会特約葬
祭事業連絡協議会会長、倉敷ロータリークラブ会員。